



2025. 3. 7 発行 ニュースレター第331号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表：小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

**写真等無断転載禁止**

## 楽しかったエコクッキング講座

2025年2月12日、千葉市花見川公民館からエコクッキング講座を依頼され、当会代表の小西が講師となり、高橋と私はスタッフで参加してきました。

エコクッキングというと、大根の葉っぱを刻んだり、大根の皮をきんぴらにするというイメージですが、今回のメニューは、今が旬のイワシのかば焼き、サツマイモのきんとん、サツマイモの皮を使った芋ケンピ、マカロニとツナ缶とカブの葉を和えたサラダ、カブのお吸い物でした。



はじめに、イワシやカブなど旬で千葉県産の野菜や魚を使うことは、生産や輸送などにエネルギーをたくさん使わず環境に負荷をかけない調理になるとの説明がありました。また、なるべくごみを出さないこと、鍋やフライパンの洗いものも油などをふき取ってから洗うこと、その際、マカロニなどのでんぷんの多い物をゆでたお湯で洗うときれいになることなどが説明されました。ニュースでもちょうど下水道管が腐食し、道路が陥没する事故が報道されており、下水を処理するのに多くのエネルギーが必要なのだとの話になるほどとうなずく人もいました。

参加者は50代から90代の13人で、4～5人ごとのグループに分かれ、2時間あまりで5品目を作りました。イワシは一匹丸ごとを調理、イワシの頭と内

臓を取ったあと、身はフライパンでかば焼きに、骨も焼いて骨せんべいにしていただきました。サツマイモの皮は厚めにむいて千切りにし、フライパンで焼いて、ゴマをかけ、お菓子になりました。カブはよく洗って皮をむかず葉っぱとともにお吸い物に、さらに塩もみしてサラダになりました。イワシは一人1尾ずつ手開きに挑戦しましたが、「イワシの骨は捨てていた」「カブなんて、漬物とみそ汁しか使ったことがなかった」「葉っぱは捨てていた」とか「サツマイモの皮も捨てていた、もったいなかった」などという会話がでていました。

しかし、出来上がったお料理はとてもおいしく、ボリュームも満点でした。イワシの骨もカリカリに焼くので、香ばしさは抜群。カルシウムも取れます。サツマイモの皮もパリパリにするにはコツが必要でしたが、家でまた作ろうという意欲がわきました。すべてのお料理がおいしく、500円でこんなにお腹いっぱいになるとは思わなかったなどの声もありました。また、13人分のお料理を作ったのに出たゴミはこんなに少ないですよと小西さんが出たゴミのごみ袋を見せたりして、その少なさに驚きました。できあがったお料理を一つのテーブルで食べていましたら、「いつも一人で食べているので、大勢で食べるとこんなに美味しいのね」と笑いながら話していた人もいました。

環境にやさしいお料理は人にもやさしく、お財布にもやさしく、笑顔にさせてくれると思いました。またやってほしいという声もあり、私たちも寒い中、エコクッキングをやってよかったと思いました。読者の中でやってみたいという方がいらっしゃいましたら、レシピをお分けします。作ってみてください。

## 下大和田水質調査報告 第6回 一後編一

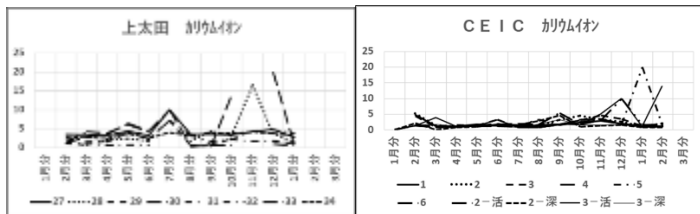
千葉市稲毛区 新井 桂二

### ⑧ カリウムイオン

上太田の方が CEIC よりもやや高い数値を示していますが、そこまで大きな差は無いように感じます。残留値なのでから 0.0 でない限り大きな問題はな

いかと思います。ちなみに田村氏の水田では何か所かで 0.0 が見られ、これが大きな特徴となっています。

また、双方ともグラフの後半で急激に上昇した地点が見受けられます。これは同年に調査したほかの地域でも同様でした。商業水田では10月～12月、CEICでは12月～2月にかけてと、CEICは遅れて上昇しています。全ての調査地点ではないので、なんとも言えませんが稲藁の分解が関係しているのかもしれないですね。CEICの場合土壌からはそのような傾向は見られませんでしたから、水の有無が関係(カリウムイオンが水に溶けだした)しているのかもしれない。



### まとめ

商業水田は収穫量アップが主目的ですので、さすがにどの成分も十分な供給がされているようです。これに対しCEICはあえて無農薬・無肥料で栽培をしていますので、イネの成長期には窒素分の供給が追

い付いていないようです。雑草の影響も無視できませんが、それでもイネの窒素分の吸収能の高さに改めて驚かされます。リンやカリウムについても同様で、CEICではイネのポテンシャルを充分発揮させていないとも言えます。もちろん収量アップが主目的ではないので、それでよいのですが、近代化以前の稲作の大変さがうかがわれます。

以上で拙い考察を終了させていただきます。次回からは2024年度の調査報告となります。2024年度は開発問題で休耕田となったCEIC水田の調査となりますが、これはこれで重要な資料となると思われます。また、2024年度は横芝光町にある乾草沼(ひぐさぬま)の調査を依頼されましたので、そちらの報告もしていこうと思っております。乾草沼は国内でも数か所しか確認されていないオオモノサシトンボ他、珍しいトンボの楽園だったのですが、開発(太陽光発電所・宅地化)が進むにつれて水草・トンボ類の減少が進み、今後が危惧されている状況です。果たして開発による影響なのでしょうか。じっくりと考察していきます。

## 市川市の人工干潟造成計画は今

### —人工干潟はこのプランの一部なの？だったら許せない！—

皆さんには、市川市が進めようとしている人工干潟造成計画について、その問題点を指摘させていただくとともに、「動画を見てほしい！」「署名に協力してほしい！」など、いろいろなことをお願いしてきました。すでに、動画を見て下さったり、署名に協力して下さった方も多いのではないかと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

そこで、もう一つ、さらに重要な点についてお知らせして、さらに動画視聴・署名行動について、皆さんにさらに拡大してほしいと思います。なぜなら、署名は予定では第一次集約日として、3月20日までとしており、今年度末の3月末までに、市川市長に提出し、人工干潟造成を断念してほしいと思うからです。

では、もう一度市川市の人工干潟造成計画を認められない理由について、整理させていただきます。

1. 人工干潟造成のために土砂投入する場所は、千葉県が発表した、740haを埋立てる三番瀬埋立計画について、「埋め立てないで！」とする県民30万人署名を背景に千葉県知事となった堂本暁子氏によって白紙撤回された海だからです。

2. その後、千葉県が人工干潟を作ろうと計画し、8通りの案で検討しましたが、思うように土砂が止まらない、生物が定着しないという結果となり、人工干潟造成を断念した海です。

市川緑の市民フォーラム 事務局長 佐野 郷美

3. 国際的な条約である「ラムサール条約」の“湿地復元の原則とガイドライン”でも、生態的な役割を果たす浅海域(浅瀬)は、人が手を入れるのではなく保全を優先するとしています。

4. また、1999年に、愛知県の藤前干潟の埋立計画が中止され時に、環境省は「人工干潟は、一時的には底生生物が増加したり、特定の生物が大量発生することはあるが、最終的には貧相な生態系になってしまう」と言っています。

5. 市は「市川市には海があるのに、市民が海に親しめる場所がない」から人工干潟を造成し、それは「市川市の悲願」とまで言っていますが、市川市内に市民が海に親しめる場所はずであるのです。江戸川放水路河口の自然干潟です(右のQRコードからご覧ください)。

6. 私達は、人工干潟造成を中止して、この自然干潟が、市民や市川に育つ子供たちが海と海の生き物に触れられる場所となるように整備して欲しいと要望しています。

7. そして、その要望を伝えるために、昨年末から「人工干潟造成計画」の中止と江戸川放水路に今ある自然干潟の整備を求めます」という署名をお願いしています。



署名用紙が必要ならば、以下の連絡先にご連絡ください。オンライン署名でよろしければ、右のQRコードからお願いします。

.....

★ここまでは、皆様にお伝えし、お願いしてきたことなのですが、もう一つ、お知らせしたことがあります。それは、市川市が人工干潟を造成したいと考えている埋立地である塩浜2丁目（京葉線「市川塩浜駅」南側）の市所有地3.8haを使って、市の「塩浜2丁目市有地整備方針」に則って民間に事業展開させているのです。計画図を見ると東西に「人工干潟」が見えます（図は紙面の都合で省略）。

5つのプールとレストラン、バーベキュー場、芝生の広場からなるリゾート施設建設を考えているようです。5つのプールの内の一つは、巨大な波が立ち、サーフィンが楽しめるプールのとのこと。大量のCO<sub>2</sub>を排出することになります。ところが、市長は就任後間もなく庁内に「カーボンニュートラル推進課」を設置し、環境省の「脱炭素先行地域」指定を狙っています。全く整合性のない両極端な事業展開であると言わざるを得ません。

さらに、「市川塩浜駅南口」から海に向かって、すでに道路沿いにヤシの木が7本植えられています。ヤシの木は1本植栽するのに約100万円かかるそうです。市川市の木は“クロマツ”。海沿いにピッタリの樹木であり、10万円を出せば、質の良い大きなクロマツ1本が植えられるそうです。

2011年の東日本大震災の時、お隣の船橋市の埋立地にあった「市民プール」は液状化で壊滅しました。その後、船橋市は埋立地での「市民プール」建設はしていません。この地域は、向こう30年の内に、80%の確率で震度7クラスの巨大地震が起これると予想されています。そして、市川市は、今年2025年に人口が最も多くなると予想されていて、その後は漸減、しばらくすると急速に高齢化が進むと、市川市自身が予想しています。

そんな市川市が、埋立地にこのようなまちづくりを計画すること自体、大きな問題なのです。皆さん、市川市の「人工干潟造成計画の中止と、今ある自然干潟の整備」を求める私達にぜひご協力ください。よろしくお願いします。以下に今後の予定を記しますので、ぜひご協力ください。

今後の予定

1. 駅頭アピール&署名行動 3月9日(日)午後1時30分～2時30分 JR市川駅北口
2. 署名の集約：3月20日(木・祝)第1次集約(この日までにはぜひお願いします)
3. 市川市への署名の提出：できるだけ3月末までに市川市長に提出したい。
4. 三番瀬人工干潟シンポジウム in 市川 3月30日(日)午後1時40分～ 市川文化会館

## 会員からのメッセージ

木曾郡大桑村 鈴木 道夫

前略 ちば環境情報センターの「ニュースレター」を毎号読んでいます。ありがとうございます。本当に現実を直視するといろいろなことがありますね。長野の片田舎で暮らしていると、普段では意識しないのが「ニュースレター」を読むと、見えてくるような気がします。畑も種を蒔き、土を耕していると、

あまり気にもしなかった畑の土の色も、「日々」？とまではいかないけど、違って見えるような気がします。「ニュースレター」を読むのも、現実の農作業と自然の接点かもしれません。「ニュースレター」を読みながら「短歌」を詠みました。もしよかったら「紙上に」とずるく思っています。

- ① 木漏れ日の滝を落らる水の音に静けさのなか自然を聞く
- ② 温暖化？草を刈ってもすぐ伸びるダイコン・白菜種蒔き出来ず
- ③ 原発の冷やした水を海放出海温上昇地球は温暖？
- ④ 送られた梨を頬張り思いだす職場の笑顔あなたの笑顔
- ⑤ 冬の畑今年は何を植えようか土を耕し日々考える
- ⑥ ウォーキング木曾川沿いの堤防に昨夜の雪がうっすら白く

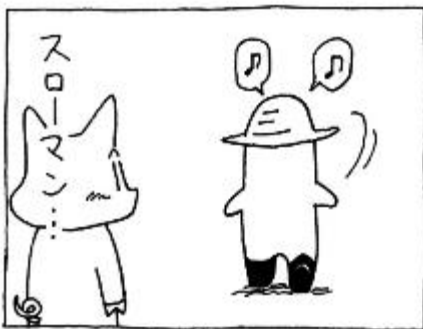
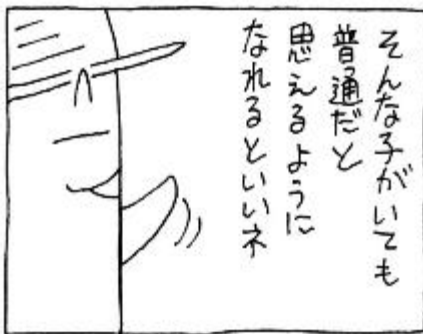
## 新浜の話85 ～ NPO法人へ ～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

もともと観察舎の業務は、千葉県から市川市に委託され、市川市の正規職員である富田孝さんと宮島君江さんが観察舎と周辺の清掃や通常の管理を担当し、鳥や保護区管理、普及啓発等は臨時職員（継続雇用は例外中の例外）である嘉彪と私、そして大黒柱

1・2号である非常勤職員の石川一樹・佐藤達夫、その他夏季やパートの非常勤職員で担当していました。1998年3月に蓮尾嘉彪はリタイアし、4月以降はフルタイムから週3日の非常勤となりました。定年退職後の再任用です。

# スロマン 作: 7月 19日



この世で一番大切なものは人間関係  
by テック鯨井

嘉彪のリタイア前の2年ほどは、気が気ではない日々でした。保護区、野鳥病院、そして観察舎そのものの管理運営はけっこう重い業務、嘉彪が抜ける穴をどう埋めたらよいか。ひとり雇用するかどうか、という程度にもかかわらず、先々の観察舎管理や保護区管理継続が本当に危うい状態だったと思います。市川市の担当者である中里さんからは、「人を増やすとか、嘉彪さんの後釜を入れるとかは、相当気合を入れないと実現しないよ」と親身のアドバイスももらっていました。

大黒柱のふたりと一緒に働くようになったのは1996年度。市川市の制度上、非常勤職員（給食担当員等）は年に3か月雇用しない期間を置かなくては継続雇用できないことになっていて、1997年にふたりがそれぞれ3か月ずつ休み、石川さんはアメリカのICFへ、佐藤さんは鳥島のアホドリ調査に同行しました。この時に知り合った川上正敬さんが大黒柱3号として来てくれるようになり、保護区の鳥類生息状況調査（カウント）は川上さんの仕事となって、現在も続いています。

非常勤職員についての制度上の締め付けがきつくなること、NPO法が成立し友の会が法人格を得るために動き始めたこと、嘉彪のリタイア、これらがおおむね同時期に重なりました。どのように市川市役所内部での合意が形成されてきたか、そのあたりはまったくわからないのですが、少しずつ野鳥観察舎の業務を友の会に任せようという気運ができてきたようです。醸成、というのでしょうか。

こういう状況の中で、市川市は友の会に委託する業務を年度ごとに増やして行きました。まずカウントなどの調査業務、次の年度は保護区の管理業務も。任意団体である行徳野鳥観察舎友の会（現在は認定NPO行徳自然ほごくらぶ）が業務を受託するには限界があり、受託業務の安定と継続には法人格が必要。1998年のNPO法施行の後、たしか2000年に友の会はNPO法人への申請を行いました。申請書が受理され審査に通り、2001年の4月から、法人格を得た友の会に市川市が業務の半分以上を委託するという体制ができました。

私の記憶にあるのは、ともかく2000年度の末（2001年2～3月ごろ）は、毎日毎晩デスクワークがしんどかったということ。22時までは事務室でパソコンに向かうのですが、21時すぎに市役所の担当の金井さんから相談の電話がかかることがしばしば。もう記憶があいまいですが、仕事の内容を細かく書きだしたり、報告の様式を作ったり、といったことだったかと。フロッピーディスクの時代、「こういうの知ってる？」と金井さんから初めてのUSBメモリーを見せてもらったのもこの頃。

2001年4月、NPO法人行徳野鳥観察舎友の会は、常勤職として石川・佐藤の両大黒柱さん、非常勤として嘉彪・川上+前年に初の友の会職員となった高橋知宏さんを抱える所帯となりました。

法人格取得・業務受託には、常連さんのおひとりで建設会社（とび職）社長の田上昇さんが大きく貢献されました。なんでも民音を立ち上げる時に苦杯をなめて、そのリベンジの意味合いもあったとか。職員雇用にあたっての就業規則作成など、こまかいところまで指導してくださいました。

【発送お手伝いのお願い】 ニュースレター2025年 4月号（第332号）の発送を 4月 7日（月）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか..... キリトリセン .....

住所

ふりがな

氏名  Tel

E-mail  FAX

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: 2月24日、千葉市内の保全団体がそれぞれのフィールドを探索しようと「谷津田めぐり」をおこないました。堂谷津、金光院、坂月川。それぞれに特徴があり、苦勞しながら保全している現状と貴重な生き物や景観を守りたいという思いが伝わってきました。詳細は次号のニュースレターで報告します。次回は4月13日、下大和田と小山町の谷津田をめぐる予定です。 mud-skipper ♀





天気の中、畦作り作業が行われました。私はあざみ谷5番を担当させて頂き、下に流れ落ちた土を、高さのある上の畦に上げていく作業、そして足がはまって抜けにくくなってしまふ..重労働でしたが、終わりは清々しかったです。田んぼの水は、今のところ落ち着いているようです。耕作放棄地だった場所を、今春、田植えスタートするという事で、開墾してくださった方々のおかげで、かなり綺麗に仕上がっていました。私はこちらの作業に加わっていないので詳しいことはわかりませんが、これから水を貯める池を作るとの事、どんな姿になっていくのか、とても楽しみです。 参加者11名(大人10名、小学生1名)

## 【谷津田・季節のたより】 2025年 2月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

2/23 キジバトは地面でゆっくり餌とり。草の芽でも食べているのでしょうか。これから北へ帰るアオジは目の周りの黒っぽい個体がありました。夏鳥の装いです。久しぶりにカシラダカの群れ、50羽くらいを見る事ができました。例年より少ないです。しかしもうじき見られなくなります。ウグイスはジャッジャッの地鳴きと、ホーホケキョのさえずりが混在。さえずりはまだ下手くそでした。柳の木にシジュウカラ、コゲラ、メジロなどが取りつきエサを探していました。ガの卵でも食べているのでしょうか。オレンジ色であやかな鳥が谷津田を転々と移動。ジョウビタキのオスです。この鳥ももうじき見られなくなります。春がもうすぐそこまで、そんなことを感じさせる谷津田でした。

＜小山町＞ 報告 た：たんぼぼ 高：高山邦明

2/4 モズのオスが田んぼで餌探し、メスは近くの木で待つ、真昼間なのに林の奥からフクロウの声。(高)  
2/5 フクロウの声、近くと遠くでコミュニケーションをとっている様。(た) エナガが8羽の群れでスダジイの幹に取り付いていた。(高) 2/9 何年も何年も聞いていた音の正体判明！ヤマドリの母衣(ほろ)打ち、逃げずじっとこちらを伺う(た) 2/14 アカガエルの卵塊初確認。リス横切る。(た)  
2/17 ウグイスがぐぜり鳴き、タネツケバナの白い花があちこちで目立つようになる。(高) 2/19 タシギが4羽の群れとなって行動している。(高) 2/20 渡りと思われる50羽くらいのヒヨドリの大きな群れがモチノキの実を食べていた。(高) 2/23 モズが巣材を集めてやぶの中に運ぶ。(高)  
2/24 ヤマドリの小さな母衣打ちが聞こえる、強弱ができることを知る。(た) 2/27 ニホンアカガエルが孵化、暖かさに誘われてウグイスがあちこちで上手にさえずる、アカガエルは初産卵以降の産卵がなく、2月が終わるのに本格的な産卵が始まっていないという記録的な遅さ。(高)

## 【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

### ＜下大和田谷津田＞

#### ・森と水辺の手入れ「復田作業Ⅹ・Ⅺと森の作業」

日時：2025年 3月 8日(土)、16日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：来年の米づくりに向けて、休耕田の復田作業を行います。森の手入れも行います。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

#### ・森の手入れ

日時：2025年 3月23日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内容：下草刈りやアカメガシワ、ヌルデなどの植物を整理します。

持ち物：動きやすい服装(長そで長ズボン)、森で活動できる靴、帽子、手袋、飲み物 参加費：無料

#### ・第308回 下大和田YPP「野草を食べる会」

日時：2025年 3月29日(土) 9時45分～12時 場所：下大和田谷津田

内容：下大和田に生育する「食べられる野草」を採取、てんぷらやお浸しなどにして春の恵を味わいます。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、お椀、飲み物、敷物など。 参加費：300円(小学生以上)

#### ・第303回 観察会とゴミ拾い

日時：2025年 4月 6日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：春の花の季節到来です。ウグイスの囀りを聞きながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物 参加費：100円

### ＜小山町谷津田＞

#### ▼第234回 小山町YPP「苗代づくり」

日時：2025年 3月30日(日) 10時00分～ ☆小雨決行

内容：田んぼに苗代を作って種モミを撒きます。

場所：小山町谷津田 ※ 参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail: tomizo\_i@nifty.com)までご連絡下さい。

